

令和6年度 小規模多機能型居宅介護 よりそいホーム 総括表

法人名 社会福祉法人 秋桜会	代表者 三島木 健	法人・ 事業所 の特徴	職員と利用者が「介護する側、される側」という関係ではなく、共に過ごす時間を大切にし、今「何に困っているのか」に着目して支援している。小規模多機能型居宅介護のメリットが十分に活かすことができるよう一人ひとりの生活に合わせた柔軟なサービスを提供している。急な泊まりの追加などサービス変更にも対応している。訪問では安否確認、健康観察、内服確認、配食等、必要な支援を見極めて援助している。
事業所名 よりそいホーム	管理者 筒井 慈子		

書面開催	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・ 地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	2人	0人	3人	0人	0人	2人	1人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・自己評価の期間だけでなく、毎月のスタッフ会議で自己評価9項目についての計画に添って活動しているかを確認する。	・スタッフ会議で計画について確認し、不足している部分は原因を考え、改善した。	・改善計画を検討し、よりよくしようと努力されていることがわかる。 ・常勤、パートさんでちがいが生じると思うが引き続き協働できるとよい。	・できている項目は引き続き継続し、改善計画を具体的に挙げ、達成できるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	・感染症の基本的な対策は継続し、空調に配慮したり、四季を感じられる製作物を飾るなど快適な環境を整える。	・感染症対策として換気、消毒は継続した。 ・毎月、季節感を味わえるような製作物を壁面に飾ったり、天井から吊るし、雰囲気づくりに努めた。	・エアドッグなどの空気清浄機の使用はどうか。 ・環境、居心地について、現状のまま安心安全に続けていかれることを望む。	・四季を感じられる製作物を飾ったり、日常的な清掃、換気を継続して居心地のよい環境を整備する。
C. 事業所と地域のかかわり	・感染症対策を踏まえ、日常を取り戻しつつ以前のように交流の機会をもち、地域行事への参画を復活させ、よりそいホームの周知につなげる。 ・全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会に入会し、小規模多機能型居宅介護の情報を得ると共に今後の課題を検討する機会をもつ。 ・小規模多機能型居宅介護が果たしている役割や地域に求められる役割を職員で共通認識できるよう、スタッフ会議や日々の伝達の中で把握していく。	・ボランティアの受け入れの再開、市や社協の催しに出かけ、地域交流の機会をもつことができた。 ・小規模多機能型居宅介護の連絡会に入会し、全国大会へ参加した。最新情報を確認し運営に活用したり、小規模多機能型居宅介護の特性を職員間で意識できた。	・介護サービスを検討している人が、「小規模多機能型居宅介護」のことをよく理解していないのではないか。紹介されてはじめて知る人が多い。 ・市内に2ヵ所しかないので引き続きがんばってほしい。	・小規模多機能型居宅介護のサービス内容は包括やケアマネは知っているが、地域の人々には十分に伝わっていない。地域の人々にも事業所の理解が得られ、地域資源のひとつとして認識されるように努める。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・感染状況を考慮しながら、地域の行事の参加をはじめ、利用者の要望に応じた活動を通して活性化した生活支援につなげる。 ・本人の「できること」「したいこと」へ目を向けて、前向きな感情を生かす関わりを実践していく。	・市や社協のイベントをはじめ、コロナ禍で中止していたいちご狩りに出かけたり、季節の花の観賞など、利用者の希望をできる限り実現し楽しんでいただくことができた。 ・ご本人がやりたいこと、少し難しいけど挑戦してみようと思われることなどを聞きとり活動にとり入れた。	・介護する家族も年々体力が低下するので、本人だけでなく家族の希望もとり入れなければならず大変だと思う。 ・利用者以外の高齢者世帯の支援も実施され、そこまでやらないとならないのか。ボランティアの制度などはないのか。	・地域の行事、イベントの参加をはじめ、日々の活動でもドライブや外出の機会を設ける。 ・コロナ禍で中止となった外部交流の再開を検討したり、よりそいホームで地域交流を図るためのイベントを計画する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・運営推進会議での理解は深められているが、より地域住民に小規模多機能型居宅介護の認識をしていただくためにさらに外に目を向けて積極的に発信していく。 ・運営推進会議に事業所職員の出席を試みる。	・利用事例を発信し、小規模多機能型居宅介護のメリットをより知りいただけるように働きかけた。 ・事業所の職員が出席する予定だったが、感染症の影響で書面開催となり実行できなかった。	・小規模多機能型居宅介護のことをもっと相談窓口の包括や市が推奨することはできないのか。情報だけでも入手できるとよりスムーズになる。 ・他市で小規模多機能型居宅介護が多数あるところから市が率先して情報を得て増やしてほしい。	・例年通り、運営推進会議を通して、事業所の取り組みや改善点を報告し、率直な意見を頂きサービスの向上を図る。
F. 事業所の防災・災害対策	・BCPの策定が行われ、今後は災害が発生した場合においてもサービス提供を継続するために平時から準備しておくことを意識していく。BCPの内容に沿った研修や訓練を実施する。	・AEDの設置、BCPの研修、訓練を実施した。	・車いすは全員分あるか（歩行不安定の方に使用） ・手動の喀痰吸引器の使い方を再確認する。	・身体機能が低下してしまう利用者が増えているため、避難経路の再検討や避難誘導等の練度を深める。 ・BCPの計画について、見直しの必要があるか検討する。